

女と男いきいきネット

ひと ひと
女と男いきいきネットワーク久喜・通信第29号 2018, 6, 23 発行

総会記念
講演



四月二〇日、女と男いきいきネットワーク久喜第十五回総会が開かれ、記念講演として当会副会長の関根寿美子さん（一般財団法人言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ）から『初めてのアフリカ（カルメーンとトーゴの出会いからの拡がり）』という題でお話を伺いました。

アフリカホームステイ

ヒッポファミリークラブは、主に「多言語の自然習得活動」、「国際交流活動」、「研究・開発活動」の三つの活動を柱としていますが、ホストファミリーとして海外からのゲストや留学生、研修生などを自分の家に招くホームステイの受け入れも行っています。関根さんも、以前トーゴの方を受け入れたことがあります。

「初めてのアフリカ（カルメーンとトーゴの出会いからの拡がり）」

講師 一般財団法人言語交流研究所・ヒッポファミリークラブ

関根 寿美子 さん

すが、その時のことがずっと心に引っかかっていたそうです。それは、「自分の中では差別意識はなかったつもりだが、どこかに私たちが（違う）という気持ちがあったのではないか？」という自分自身への問いでした。

そんな時、ヒッポファミリークラブ35周年オリジナル企画として、『カメルーン&トーゴパイオニア交流』があることを知り、迷うことなく参加申し込みをしたそうです。九月に予防接種をして、十一月下旬から二週間、大学生からシニア年代十六名の仲間とともに、この交流の旅に出発しました。

日本から香港・エチオピア経由でカメルーン的首都ヤウンデまで、二十七時間かかっ



ホストファミリー

関根さんのホストファミリー



リーは繁華街から離れた丘の上にあり、そこまでの道はデコボコの赤土で車での移動も大変でした。ファミリーは、お父さん・お母さんと五歳のフォートリスちゃん・三歳のアシムくん・一歳のシャニーくん・十歳の姪ブリッシーちゃん、同居人の二十三歳のリタさん・二十五歳のローレンヌさん家族でした。姪は叔母さんの子で、食事の後片付けや食卓の掃除をしながら一緒に生活をしています。同居人のリタは、子守りをして午後の三時から職業訓練校に通っています。ローレンヌは、水汲みをしてもらっています。水は共同井戸から汲んでくる

のですが、これは大変で難しい仕事です。

関根さんは日本からシャボン玉を持って行き、子ども達とシャボン玉で遊びました。好奇心旺盛で人懐こい子ども達は、彼女の髪の毛や肌の色が珍しいのか、大きなキラキラ光る目で彼女を見つめ髪や肌を触ってきたそうです。

夕飯は、子どもと大人は別室で食べます。共同ファミリーで獲れたオクラ、落花生料理にバナナ料理を美味しく頂いたそうです。お風呂やトイレは、水道がないので共同井戸から汲んでいた水をバケツに入れ、それを使ったとのこと

アフリカの子ども達

滞在中は、小学校や大使館、他のファミリー、JICA(ジャICA)活動拠点等への訪問にも出かけました。小学校では、日本の紹介や多言語ゲーム、歌やダンスで交流をしましたが、関根さんはアフリカの子ども達の『スゴさ』(①新

しい言語に出会ってもひるまないこと、②リズムで日本語を真似る身体能力、③好奇心に溢れている生きる力)にビックリしたそうです。

カメルーンには約二五〇の民族とその言語があり、多民族多文化多言語に慣れ親しんでいる彼らには国境がありません。皆が助け合い一丸になって朗らかに生きている姿に、私たち日本人が忘れていた何かを気づかされたと言います。



そこには、ご自身の昭和の昔の時代が重なって、懐かしさを覚えたそうです。

また、十歳のブリッシーちゃんとの出会いに感動したこと。彼女は、関根さんの日々のお風呂用のバケツのお湯を用意してくれていた女の子です。小学校の国際理解授業の日の帰宅後、翌日のホストファミリーとのヒッポパティに向けてダンスの練習をしていたら、自然と彼女達が寄ってきて一緒にダンスを始めたそうです。『楽しいこと。喜びはシェアする』ということが、当たり前前に身につけているのです。

さらにブリッシーちゃんは、関根さんが持って行った折り紙とその本をみて、「ティッシュケースを作りたい!」と言ってきました。関根さんは難しいので断ったそうです。そうしたら、ブリッシーちゃんは三十分かかって本を見て、クシャクシャながら自力でそれを仕上げたのです。関根さ

んは彼女から「人に向ける心のピュアさ」を教わり、感動したそうです。

トゴジャパンフェス

一週間で過ぎホストファミリーと涙でお別れをして、トゴの首都ロメに向かいました。ロメ空港には、昨年のインターンを経て再度トゴにジャパンフェスの企画を立てた大学生の辻旺一郎君が出迎えてくれました。辻君は、「もっとアフリカの人に日本を紹介したい！」という想いをもって、アフリカ行きを決意。今回も、関根さんたちとトゴ・パリメ市で「ジャパンフェスティバルを一緒に開こう！」ということ合流したのです。

その日はロメ市民と交流して、翌日パリメ市に向かい、辻君の手配してくれた民家で合宿やホームステイを体験しました。そして、いよいよジャパンフェスの準備！市役所の一角に、既に「日本祭り」の看板がかかっていたが、

たくさんの方に来ていただきたく、自分たちでもチラシを作りチンドン屋で練り歩いたそうです。

十二月四日二時、パリメ市役所ホールにて「日本祭り」が開催されました。内容は、日本出発前にそれぞれが考え準備してきたものです。日本の仲間が多言語で自己紹介した後は「ソーラン節」を披露しました。「ソーラン節」は、どの国の人も感動したようです。また、それぞれのブースでは日本文化を紹介。祭りの朝作った四百人分のカレーライス（ルウは日本から持参）、クレープ等の食べ物も大人気でした。



そして、圧巻は「着物ファッションショー」。前もって送った着物、振袖・留袖・浴衣・羽織等五十着を、現地のモデル（職業訓練校の学生さん）が着て、約五十組が登場すると、拍手喝さい！その後は、皆総立ちになって踊りだし、いつの間にか音楽とダンスと着物が国境を超え溶け合いました。

人間としての在り方

関根さんは、この旅を終え自分を振り返ります。「豊かさとは何なのか？」「人に壁を作ってこなかっただろうか？」「心を込めて人に向き合ってきただろうか？心を込めて亡き母の介護をしただろうか？」と…。

最後に、カメルーン大使館に今回の交流の報告をするために表敬訪問した時に、大使から頂いたメッセージが資料として載っていたので、その一部を紹介します。

「日本では、人々は孤立して生き孤独です。犬を飼い、犬の世話をし抱き抱えて、一人散歩する姿は本当に悲しいです。」

今回あなた方は、家の中に入って、家族や人々と一緒に生き、ホームステイを通じてカメルーンが誇りにしている『人間としての在り方』を見つけてきてくださったのです。そのことを、心から嬉しく思います。」
(文責・進藤)





「女性の社会進出」

女と男いきいき

ネットワーク久喜

会長 内海 弘美

本年度より、女と男ネットワーク久喜の会長になりました。「特定非営利活動法人 子育てステーションたんぽぽ」の内海弘美です。

生まれも育ちも久喜市の《くきっこ》です。久喜の町がこんなにも都会になって：たくさんの人たちが行きかい：住みやすい街になったなあ：とひそかにとても喜んでおります。私は、三〇年以上子育て支援の仕事をしております。幼稚園・保育園で子どもたちと楽しく過ごし、子どもたちを通して世の中の変化を感じています。十年ひと昔前と

いいですが、子育てもかなり変化しました。子どもと家庭を通じて男女の在り方も変化するのを感じています。

そんな中、ネットワークの活動を知った時に男女共同参画とは父親・母親が築いていく家庭に当てはまり、まさに男女共同参画とは、家庭であるのではないかと感じました。そして、子育て支援の活動をしていく私たちの団体もネットワークの活動に参加できるのではないかと感じ入会させていただきました。法人では、認可保育園・認定認可外保育園・子育て支援センターなどを運営しております。近年女性の社会進出が増える中、共働き家庭が増え保育園が不可欠になっていきます。保育園は男女共同参画を担う活動をしていると自負しております。また、女性の社会進出という観点からも保育施設で働く保育士は女性が多く、私も女性の職場で長年働き男女共同参画を身をもって感じてきました。

た。

女と男ネットワーク久喜に参加して、会員の皆様の活動を知り社会において活躍する女性の姿をさらに幅広く知ることができました。各団体の具体的な活動発表などを通して、私も同じ女性であることを誇りに感じるようになりました。そして、会長として更なるネットワークの活動に協力していきたいと考えております。今後とも会員の皆様、関係者の皆様のご協力をお願いいたします。

最後に私たち「子育てステーションたんぽぽ」の今後の予定は、久喜市の提灯祭り、市民まつりや地域のイベントなどに子育て支援の面から積極的に参加していきます。また、駅前のクッキープラザを活動拠点に子育てイベントの開催も考えています。ハロウィンやクリスマス・子育てコンサー



トなども企画します。子育て相談は随時行っています。地域の皆様の参加をお待ちしています。どうぞよろしくお願ひいたします。

【編集後記】

最近また児童虐待のニュースが多くなり、心が痛みます。私たちが目指す男女共同参画社会の実現とは、女も男も子どもも高齢者も障がい者も、「一人の人格ある人間を尊重する社会の実現」です。

子どもは親の所有物ではありません。子どもの意見表明に耳を傾け、子どもの「自立」自己決定できる人生」のために、親は社会は手を差しのべることが大切です。そのためには豊かな生活環境、豊かな人間関係が基本になります。誰かが困っている時、そっと手を差しのべられる地域社会でありたいと思います。(K)

【発行】

女と男いきいきネットワーク久喜
代表 内海弘美(21)8825